



その先の、道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.

明治維新を迎えた新政府は多くの有能な人材を北海道へ派遣し、開拓に全力を注ぐこととなります。北海道開拓に尽力した先人たちの熱い想いと軌跡をご紹介します。

2018年(平成30年)、本道が「北海道」と命名されてから150年の節目を迎えます。



松浦武四郎

交流を深めていきます。アイヌ語を学び、寝食を共にするなかでアイヌ文化に触れ、その文化や生活を詳細に記録し紹介することにも力を注ぎました。

アイヌへの想いを地名に残す

武四郎は明治2年(1869年)に政府の一員に取り立てられ、開拓使の役人(開拓使判官)として蝦夷地に代わる名称6案(「北加伊道」など)を提案します。同時に国名(「石狩、後志」などの支庁名)、86の郡名もアイヌ語にちなんで選定しました。現在、北海道にアイヌ語由来の地名が多く残っているのは、武四郎の働きによるものです。

翌明治3年(1870年)武四郎は、江戸時代からアイヌの人々を苦しめていた「場所請負制度」(特権的な商人が松前藩や幕府から蝦夷地各場所の経営を請け負った制度)の



未知は拓ける

創造価値への挑戦、そして未来への扉

「北海道」の名づけ親

松浦武四郎

出身地/三重県松阪市小野江町(旧国名/伊勢国一志郡須川村)



武四郎が持ち歩いた提籠草入(遠軽町丸瀬布郷土記念館)

時代は江戸から明治へ。蝦夷地が北海道と名を改めたのは、明治2年(1869年)8月。開拓使判官となった松浦武四郎の献策によるものでした。

海岸沿いに2年がかりで蝦夷地を踏査した武四郎の「北の大地」への想いは熱く、アイヌの人々との出会いから多くのことを学び、畏敬の念につながります。

蝦夷地を目指す

松浦武四郎は文化15年(1818年)、現在の三重県松阪市に郷士の四男として生まれます。江戸の時代、生家前の道路は伊勢神宮へお参りに行く人々でにぎわう「参宮海道」でした。幼少から学問の素養を身に付け、多くの旅人を見て育った武四郎は旅への憧れをいだいていました。16歳のとき、両親に無断で江戸に出て、迎える者に連れられて故郷に戻るが、翌年本格的に各地を回る旅に出ます。京都に上がり、天保9年(1838年)まで近畿、北陸、中国、四国、九州を歩きました。中国やインドをも目指していた武四郎は九州一周を果たした後、吉岐・対馬まで足を延ばしますが鎖国制度により朝鮮半島への渡航を断念。天保14年(1843年)長崎に戻り、北辺の危機を知らされます。当時の江戸幕府はロシアとの緊張関係から蝦夷地の情報収集を行っていました。一般に知られることはなく、武四郎自ら蝦夷地の様子を調べ多くの人々に現状を知らせようと決意します。

6回に渡り蝦夷地探査

武四郎が蝦夷地へ渡ったのは弘化2年(1845年)、28歳のときでした。以降、1858年までの間に計6回探査に訪れます。3回までは一探検家として多くの報告書をまとめ、それを評価した幕府は武四郎を雇い入れます。4回目以降は幕府の命により探査の任務にあたります。6回の探査では地形、地名、自然の様子などを詳細に記録、計151冊の日記にまとめられています。現在でも当時の北海道(蝦夷地)を知る貴重な資料となっています。



松浦武四郎が描いた「蝦夷人鶴の舞図」=松浦武四郎記念館(三重県松阪市)

廃止を政府に訴えましたが実現せず、開拓使判官の職を辞し、長年の功績により与えられた従五位も返上しました。

晩年は著述に過ごしましたが、奈良県大台ヶ原の調査や富士山への登頂など、明治21年(1888年)に71歳で亡くなるまで、探査や旅での情熱は衰えることはありませんでした。

「開拓神社」

開拓70周年にあたり北海道開拓に偉大な功績のあった功労者の御霊をお祀りし、永久に尊崇申し上げたいという当時の北海道長官石黒英彦の提唱によって、昭和13年(1938年)8月15日に北海道神宮内に松浦武四郎をはじめ36柱の御霊が鎮座になりました(現在37柱)。その後昭和63年(1988年)、御鎮座50周年を記念して現在の拝殿が御造営されました。



松浦武四郎 三重県関連展示施設

開拓神社
・札幌市中央区宮ヶ丘474番地
・TEL.011-611-0261
(北海道神宮社務所)



松浦武四郎記念館

松浦武四郎の功績を讃え、松浦家で代々大切に保管されていた武四郎ゆかりの資料を展示しています。
・三重県松阪市小野江町383番地
・TEL.0598-56-6847



150年ほど前までは原野であった札幌。豊かな都市に発展した背景として、明治2年に佐賀から来られた開拓判官・島義勇の功績は大きく、彼の都市構想が現在の札幌に生かされています。「島義勇伝」は札幌の歴史を知るきっかけとして子どもから大人まで楽しめる教育的な漫画です。ぜひ一読ください。



コミックス
好評発売中!!
各書店にて
お求めください。

「島義勇伝」製作委員会 著/エアーダイブ 定価:本体900円+税 ISBN:978-4-907436-02-5 C0921

発行 | Dybooks(ダイブックス) 〒064-0808 札幌市中央区南8条西4丁目422番地5 グランドパークビル3F TEL:011-533-3216 FAX:011-533-3215 エアーダイブから発信する! 本サイト <http://www.dybooks.jp/>

北海道・札幌の礎を築いた、開拓判官「島義勇」の物語

北海道庁 佐賀県庁
タイアップ作品!! 推薦図書!!

◎北海道学校図書館協会 ◎佐賀市役所 ◎佐賀市教育委員会

推薦図書!! 推薦図書!!

第8回 北海道神宮フォトコンテスト

北海道神宮の周辺は自然の恵みの宝庫です。神宮境内の四季折々の景色や、初宮詣、七五三詣、結婚式などの人々の様子。北海道神宮例祭(札幌まつり)、開拓神社例祭(神輿渡御)、神饌田での行事などの祭事風景など、当神宮に関わる写真をお送りください。

学生部門も
作品募集中

応募部門: ①一般部門(専門学校、大学生含む) ②学生部門(中学生、高校生)

賞・賞品
神宮賞 各部門1名
▶賞状、賞金10万円
(学生部門は図書カード5万円)
奨励賞 各部門2名
▶賞状、賞金5万円
(学生部門は図書カード3万円)
入選 各部門20名
▶賞状、協賛会社賞品

●入賞・入選発表:平成30年4月上旬(北海道神宮ホームページにて) ●入賞・入選作品展:平成30年4月~9月以内 神宮境内予定 主催/北海道神宮 後援/北海道神宮奉賛会 協賛/中西印刷株式会社

北海道神宮 〒064-8505 札幌市中央区宮ヶ丘474
TEL.011-611-0261 FAX.011-611-0264
▶コンテストについての詳細はホームページをご覧ください。
www.hokkaidojingu.or.jp 北海道神宮 検索